

2019 年度 プロジェクト研究所業績報告書（中間報告）

プロジェクト名	大学生の数的能力・金融リテラシーを育成する
研究所名	数的能力・金融リテラシー育成研究所（所長 生活文化学科 高橋桂子 教授）
設置開始	2017. 4. 1
設置終了	2021. 3. 31

■研究の進捗状況（研究員の活動実績含む）

①FP3 級講座＋立体認識講座(学内講師)

■FP3 級の担当は角本・蟹江・中野・高橋・阿部。

9 月試験に間に合わせるため、前期にアドホック開催した（担当回数：角本 2 回・蟹江 4 回・中野 3 回・高橋 8 回・阿部 2 回）。生活科学部生活文化学科 3 年生の 5 人が受講。日野と渋谷、両キャンパスで実施した。その結果、9 月受験では 5 人中 4 人が、翌 2 月受験では残り 1 人と FP3 級合格者のうち、1 名は FP2 級に挑戦し、合格した。

■立体認識は 3D プリンターが不調ということもあり、実施しなかった。

②専門家を招聘した勉強会の開催

国内専門家を招聘する。9/14、渋谷キャンパスに講師を招聘し、ファイナンシャル・リテラシーに関する尺度構築に関して講演いただき、質疑応答を行った。

③金融リテラシーに関する調査実施→論文・学会発表

■アメリカ作成「金融リテラシーテスト」翻訳（阿部）、国内実施。

→予定通り、複数の学会で発表を行った。論文投稿は 2020 年度に持ち越しとなった。

■「2018 金融リテラシー調査」を改良した「2019 金融リテラシー調査」を実施・分析する。

→これも 2020 年度に実施する予定である。

■現在までの達成度

ほぼ、予定通り進んでいる。

上に見たように、③を行うことが 2020 年度の主な課題である。

■次年度以降の研究（見込み）

1. 金融リテラシーに関する国際調査の実施・分析・学会発表

アメリカ経済教育協議会 (CEE) が作成した「金融リテラシーに関するテスト (金融リテラシーテスト Test for financial Literacy, TFL)」を我々プロジェクトが引き受け、著者の許可を得て日本語に翻訳して 2019 年度は調査を実施した。10 大学 1044 人の大学生から協力を得ることができた。その一部は CEE で学会発表した。このテストには日本の他にドイツ、韓国、中国やフィリピンなどが参加している。2020 年度はこれら各国データの比較分析を行い発表する。

2. 行動経済学アプローチによる金融行動、金融リテラシーの実験

金融リテラシーを量的分析する時の枠組は、一般に、金融知識が高いほど金融態度 behavior をとり、金融態度が高いほど金融行動 (預貯金を行う、分散投資ができるなど) をとるというものである。この枠組みは経済的合理人を前提にしているが、昨今の行動経済学では「ナッジ nudge」概念による人間らしい経済行動に関する実験報告が多くされている。我々の研究会でもナッジに関心をもつメンバーは多い。経済・金融行動に関する実験を行う。

3. 独自アンケート調査の実施

アメリカの翻訳テスト (TFL) による金融リテラシーの把握は、メンバーが知りたいことの解明に限界がある。たとえば、認知分類でアメリカでは知識と判別される設問が日本では応用に分類されることがある。我々が知りたいのは日本人の金融リテラシーである。2018 年度に独自調査を行った。その発展系で 2020 年度も独自調査を設計し、調査を行いたい。

■研究活動における成果

(1) 研究成果（雑誌、学会発表、図書等）

【論文】

- Takeuchi Mika, Takahashi Keiko, Awazu Shunji, Yokoo Akiko, Takeda Hitomi, Suzuki Masao, & Hiroi Tazuko, 2020, Career Preparation of Female University Students and its Psychosocial Factors: Do their career self-efficacy and resilience forecast their progress of self-evaluation of career preparation activities? 実践女子大学下田歌子記念女性総合研究所年報, 6, 35-50,
- Takahashi Keiko, Kuramoto Ayako, & Kurokawa Kinuyo, 2020, Japanese fathers' intention to cooking: associations with maternal gatekeeping, family money management, and learning experiences of opportunity cost, 実践女子大学生生活科学部紀要, 57, 67-72
- Kurokawa Kinuyo, Takahashi, Keiko, & Kuramoto Ayako, 2020, Is Family Life Education at School in Japan effective for Japanese fathers? Focusing on Co-educational Home Economics Education and Intention to Do Household Work, 鳴門教育大学研究紀要, 343-349,
- 猪瀬武則 (2019) 「18 才選挙権時代の経済教育内容開発-リバタリアン・バターナリズムの扱い」 『経済教育』 (38), pp.133-143.
- 猪瀬武則 (2019) 「社会科評価論—行動目標からパフォーマンス評価へ—」, 『日本体育大学大学院教育学研究科紀要』, 2(2), pp 235-248.

【学会等発表】

- 高橋桂子・小林史奈 (2019) 「女子大学生のリーダーになることへの自信：日常場面と逆境場面で規定要因は異なるか」、日本家政学会（四国大学、5/25）
- 高橋桂子 (2019) 「契約自由の原則とクーリングオフ・未成年者契約取消」、2020 年度実践女子大学教育プロジェクト「中高「家庭」担当教員向けセミナー②「食物アレルギー」「消費生活」と「新学習指導要領」を学ぶ(7/14、渋谷キャンパス)
- 高橋桂子・阿部信太郎・猪瀬武則・中野裕美子 (2019) 「金融経済知識を規定する行動特性は何か?」、経済教育学会（名古屋経済大学、9/29）
- 高橋桂子・阿部信太郎・猪瀬武則・中野裕美子 (2019) 「日本の大学生の金融リテラシーの現状と課題：計量分析から見えてくること」、経済教育学会（名古屋経済大学、9/29）
- 阿部信太郎・高橋桂子・猪瀬武則・中野裕美子 (2019) 「日本の大学生の金融リテラシーの現状と課題：米国の標準テストによる測定結果の分析」、経済教育学会（名古屋経済大学、9/29）
- 高橋桂子・角本伸晃・蟹江教子・中野裕美子 (2019) 「日本の大学生の金融リテラシー：2 つの調査から」2019 年度 実践女子大学研究成果公開促進助成国際シンポジウム「日本型金融リテラシー教育のあり方を探る」（2019.12/1）
- 高橋桂子 (2019) 「還付金詐欺を知っていますか」、シニア PC カレッジ@実践女子大学（2019/12/7）、科学研究費助成研究(研究代表者：細江容子、課題番号 16K04566)
- Kanie Noriko, Takahashi Keiko, Abe Shintaro, Inose Takenori, Kadomoto Nobuteru and Nakano Yumiko, 2019, Research on Financial Knowledge of University Students Attending Middle-Ranking Universities in Japan, ARAHE(中国・杭州、8/20)
- Takahashi Keiko, Abe Shintaro, Kadomoto Nobuteru, Kanie Noriko and Nakano Yumiko, 2019, Do behavioral characteristics affect the score of financial literacy among Japanese students?, CEE (10/4-5, Los Angels)

(2) 学生・生徒の教育及び支援に関する還元

■FP3 級に関する補講授業を随時展開した。

担当：角本・蟹江・中野・高橋・阿部。

2019 年 9 月試験に間に合わせるため、前期にアドホック開催した（担当回数：角本 2 回・蟹江 4 回・中野 3 回・高橋 8 回・阿部 2 回）。生活科学部生活文化学科 3 年生の 5 人が受講。日

野と渋谷、両キャンパスで実施した。その結果、9月受験では5人中4人が、翌2月受験では残り1人学各した。FP3級9月合格者のうち1名は、FP2級に挑戦し、合格している。